



「阿蘇の水環境シンポジウム」開催

阿蘇の水をテーマにしたシンポジウムが2月11日、NPO法人阿蘇ミュージアムの主催で行われ多くの参加がありました。基調講演のほか、阿蘇ミュージアムのインタビュアーによる研究調査の発表、パネルディスカッションがあり、特に研究調査では「降水」「湧水」「河川」「温泉」についての報告がなされ、阿蘇がいかに優れた水環境であるかを調査の数々から説明され会場をわかせました。

この成果は、セブンイレブンみどりの基金を活用し制作された「阿蘇の水の本」にも掲載され、今後、市内の学校や修学旅行生等へ配布される予定です。

阿蘇ミュージアムは阿蘇火山のガイド養成や修学旅行等の現地案内、研究・調査等を行うため阿蘇火山博物館内に平成16年に設立。

阿蘇を訪れる人たちに阿蘇火山のしくみや周囲の環境などを説明し、「世界の阿蘇」の名にふさわしい魅力があることを身をもって発信されています。

※インタビュアーやコースツアールについて興味のある方は、お気軽にお問合せください。

■NPO法人阿蘇ミュージアム ☎34・2111



春休み特集

『未来の水環境を守るのは君たち!』

子どもたちに知ってほしい 阿蘇の水のこと



阿蘇にはどうして湧水が多いの？

理由は3つあります。

1、多量の雨が降る。阿蘇は全国でもトップクラス。なぜ、雨が多いかというと、有明海～熊本平野～阿蘇山の地形が原因です。山の斜面では、上昇気流が発生しやすく、さらに阿蘇地方には西風が多く、海からの湿った温かい水蒸気がたくさん運ばれてきます。水蒸気は山にぶつかり斜面に沿って上昇し、山頂付近で雲になります。このようにして雲がでやすいので雨も多いのです。

2、その雨水を「かん養（ゆっくりと時間をかけて雨水がしみこみ、帯水層を満たしていくしくみ）」する森林や草原が、長年維持されてきた。

私がお説明
いたしましょう



よろしく
お願いします

阿蘇ミュージアムが制作した「阿蘇の水の本」から、一部を引用し、阿蘇の水について紹介します。

3、「火山噴出物（火山灰や溶岩、火砕流堆積物などのこと。割れ目や孔などのすきまが多く地下水が通りやすい）」の一部が、帯水層の役割を果たしている。

阿蘇は「九州の水がめ」とも呼ばれていますが、この3つの理由がそうするため、湧水が多いと考えられています。その数は、少なくとも1,500ヶ所以上です。

水を通しやすい火山噴出物の地層と、水を通しにくい地層（例えば、花こう岩の地層）、帯水層の働きによって、阿蘇カルデラの地下に、水がめのような構造ができます。この構造により大量の地下水がためこまれ、それが湧水になってわき出します。

地下水を利用するとき、大半の地域では、井戸をほってポンプの力で地下からくみ上げています。しかし、阿蘇には、2m以上の高さで水が自然に噴き上がる「自噴」する場所もあります。



▲ 役犬原地域の田園地帯では、自噴する湧水を見ることができます。

阿蘇と熊本平野の地下水

阿蘇外輪山でしみ込んだ地下水は地層を通って熊本平野へとたどり着き、約98万人においしい水道水として供給されています。特に熊本都市圏は世界でも有数の地下水だけで生活用水をまかなっている地域です。地球上の97.5%は海水で、淡水2.5%（大部分は雪や氷河）。その中で地下水は0.8%しかありません。貴重な地下水を大切にしなければなりませんね。

川って、どんなもの？

地面に降った雨や雪などがいったんしみ込んで、湧水として地表に出ると、低い位置に向かって流れ出します。流れ出てきた水は集まって川になり、海や湖に流れこみます。源流に近い方から上流、中流、下流に分けられます。上流は冷たくて、きれいに澄んだ水です。

中流では、水量が増え川幅が広くなります。平野部では、曲がりくねって蛇行し、河原や中洲ができます。下流は、さらに川幅が広くなり、水量も多くなります。これが一般的な川の姿です。

「流域人口」とは、川の流域に住んでいる人の数です。阿蘇を源流とする6つの一級河川の流域人口は、約230万人です。これに、筑後川から取水している福岡市の人口なども合わせると、阿蘇の水のどをうるおす人口は、500万人にも達します。雄大な阿蘇の恵みを感じますね。



すね。

阿蘇を源流とする6河川の概要

	全長	流域面積	流域内人口
白川	74km (九州9位)	480km ² (九州14位)	約13万人
緑川	76km (九州7位)	1,100km ² (九州7位)	約53万人
五ヶ瀬川	106km (九州6位)	1,820km ² (九州4位)	約13万人
菊池川	71km (九州10位)	996km ² (九州9位)	約22万人
大野川	107km (九州4位)	1,465km ² (九州6位)	約21万人
筑後川	143km (九州1位)	2,863 (九州1位)	約109万人

阿蘇にある一級河川ってどれ？

九州を流れる一級河川のうち、阿蘇を源流とする川は、6本あります。まず熊本県をうるおし、有明海に注いでいるのは菊池川・白川・緑川です。そして大分県に注ぎ込む大野川、福岡県の筑後川、宮崎県の五ヶ瀬川と、阿蘇から4つの県へ流れ、そこに住む人たちの生活用水、また農業用水となっています。阿蘇の水は多くの生命、産業を支えるという大きな役割を担っているのです。

なぜ漁師さんが森を育てるの？

熊本市の「天明水の会」では、平成6年緑川上流に、全国に先がけて「漁民の森」の植林を始めました。

その2年前に、宇土市で開かれた「第2回ふるさと環境会議」の席で「あさりが消えかけている」との発言がありました。上流に住む人からは「下流に被害があるのは上流の我々も責任があるのではないか」との発言がありました。出席していた上流の山を守る人々も、下流の漁師さんも、豊かな海を取り戻すためには、豊かな森が必要であることに気が付いたのです。

森に降った雨は、腐葉土の豊かな栄養分を、海に届けます。有明海の豊かな恵みには、森が大きな役割を果たしています。そして、山と海の人々が協力して森づくりの植林を始めました。

森がよみがえるには長い年月を必要としますが、上流域と下流域の人たちのネットワークを深めることで、豊かな自然のもと、人々が生き生きと暮らしているような環境を作りたいと願っているのです。

未来を担う皆さんへの願い

「阿蘇は水資源が豊富」といっても限りがあります。水資源の保全のために、私たちがまずやらなければならないことは、水源のかん養と節水です。これからも「阿蘇の水」について学び、自然と人との関わりあいについて深く考えていただくことが私たちの願いです。